

自然と文化科 活動記録 (公開講演会)

日時	2025 年 6 月 20 日 (金) 10:00~16:20	担 当 者
場所	クロスパル高槻 午前：各委員会、全体会議、班会議 午後：公開講演会 8F イベントホール 運営委員会	日野 裕一

備考 参加者数 1 班 19 名 2 班 19 名 3 班 16 名 4 班 18 名 外部 11 名 合計 83 名

公開講演会（13:00~15:00）の概要は以下のとおり。

1. 講演のテーマ：「エピソードで綴る人物史Ⅱ 江戸の文化と蔦屋重三郎をめぐる人々～〈べらぼう～蔦重栄華乃夢嘶～の時代〉～」

2. 講演者名：社会人講座講師 藤井雅英先生

3. 講演者略歴：昭和 29 年生まれ。神戸大学経済学部卒業、兵庫県立高校教師、兵庫県立教育研修所所長、姫路西高等学校校長、園田学園女子大学准教授などを経て現在に至る。専門分野は教育行政学（教育行政、教育課程論、生徒指導論等）、日本史。



4. 講演要旨：

江戸時代中期から後期にかけて、蔦屋重三郎および関連する人物について、さまざまなエピソード（逸話、こぼれ話）の紹介があった。エピソードを知ることにより、その人物像がより具体的に理解できる。一方、特定の人物の評価は時代や人により変わるということをよく認識しておく必要がある。ウソの話も結構あるので注意をする必要がある。

江戸幕府の政治に関連する重要人物としては、田沼意次と松平定信がいる。

田沼意次は、賄賂政治を行い、悪人と呼ばれているが、有能な男である。しかし、天明の大飢饉で失脚した。今でいう重商主義政策を推進しており、現在の評価は高い。松平定信は、田沼の後の寛政の改革で、緊縮政策、賄賂の禁止、風紀の取り締まりや文教振興策を推進したが、改革の厳しさで役人や民衆に不満がたまり失脚した。しかし、戦前の評価は現在よりは高かった。

蔦屋重三郎は、江戸時代中期に版元として、「浮世絵」の黄金期を築いた人物。原点は吉原大門の貸本屋であり、その後相次いでヒット作を刊行した編集・出版プロデューサーとして活躍した。多くの異才を見つけて、いろいろ援助しながら育てた。狂歌師・戯作者では、大田南畝（蜀山人）、恋川春町、山東京伝、十返舎一九、曲亭（滝沢）馬琴、浮世絵師では、喜多川歌麿、葛飾北斎、東洲斎写楽などがある。山東京伝・喜多川歌麿・葛飾北斎・十返舎一九などについては、詳しく、面白いエピソードの紹介があった。

途中で、江戸時代の雑学として、歴史クイズ（5 題）が出された。①世界一周をした人 ②武士の落書きがある世界遺産 ③虫歯が原因で亡くなった新撰組のメンバー ④江戸に多い食べ物屋 ⑤宮本武蔵が佐々木小次郎に勝った最大の理由 であり、楽しく学ぶことができた。

最後にまとめとして、歴史を学ぶ意義の説明があった。

- ① 過去の失敗を繰り返さないため。（過去の人々の叡智や失敗から学ぶことができる。）
- ② 時代に翻弄されずに生きていくため。（歴史は、考えない人間は翻弄されることを証明。どんな人が、時代に迎合したり、抗ったりしたのかを学ぶ。）
- ③ 自分の頭で考える重要性に気づくため。（過去の事象の理由を考え、みずから深く学び、将来に役立てる。）

所感：江戸時代の人物について興味深いエピソードの話があり、その人物や時代背景を理解することが少しはできました。面白いと感ずることが歴史を学ぶ意義かもしれません。